

令和 6 年度「青少年の意識に関する調査」(概要版)

調査のポイント

- より科学的な手法により調査対象校の選定(サンプリング)を行い、小中学校については無作為抽出法により選定し、高等学校については全数を対象とした調査とした。
- 前回の紙の調査票とインターネット調査の併用から、すべてインターネット調査とした。
- これまでの設問や選択肢から選ぶ回答方法を見直しし、新たな設問や利用時間等を記入する回答方法を取り入れた。

調査結果の主なポイント

- 新たな設問「住んでいる地域に住み続けたいと思っているか」(中学生と高校生のみ)に対して、「住み続けたい」「まあ住み続けたい」と回答した中学生は約 77%、高校生は約 55%であった。
- 新たな設問「将来、結婚して家族を作りたいと思うか」(中学生と高校生のみ)に対して、「将来家族を作りたい」と回答した中学生は約 58%、高校生は約 65%であった。
- 新たな設問「1日平均の勉強時間」では、勉強時間を記入する回答方法により算出した結果、小学生では1時間20分、中学生では1時間13分、高校生では59分であった。
- 「スマートフォンの1日平均の使用時間」は、利用時間等を記入する回答方法に変更したことにより算出した結果、小学生で2時間9分、中学生で3時間29分、高校生で4時間15分であった。
- 地域への愛着と定住意向の関係について分析したところ、地域の大人からあいさつされている青少年は高い割合で地域への愛着や定住意向を示している傾向があった。(詳細は報告書参照)

調査の概要

1 目的

本県における青少年の意識や行動を把握して、青少年に関する施策の総合的な推進のための基礎資料を得るとともに、得られた結果を広く県民に紹介することにより、青少年の健全育成に対する理解と協力を得る。

2 方法

インターネットによる調査

3 調査の対象

(1) 小学校、中学校

層化無作為抽出法により選定した小学校6年生、中学校2年生

(2) 高等学校

県内の公立高等学校2年生の全生徒

(3) 回答率

校種	対象学年	調査対象者数※	回答者数	回答率(%)
小学校	6年生	853	444	52.1
中学校	2年生	884	752	85.1
高等学校	2年生	9,114	6,232	68.4
計	—	10,851	7,428	68.5

※ 調査対象者数は、令和5年学校基本調査による

4 実施期間

令和6年9月から10月まで

5 監修

弘前大学人文社会科学部 教授 羽瀧一代氏、准教授 花田真一氏

調査結果(抜粋)

<定住意向>(報告書9ページ、R6新たな設問、中学生と高校生のみ)

中学生と高校生に、住んでいる地域に将来も住み続けたいかどうか尋ねたところ、「住み続けたい」が中学生では25.8%、高校生では14.6%で、中学生の方が高校生より定住意向をもつ者の割合が高い。

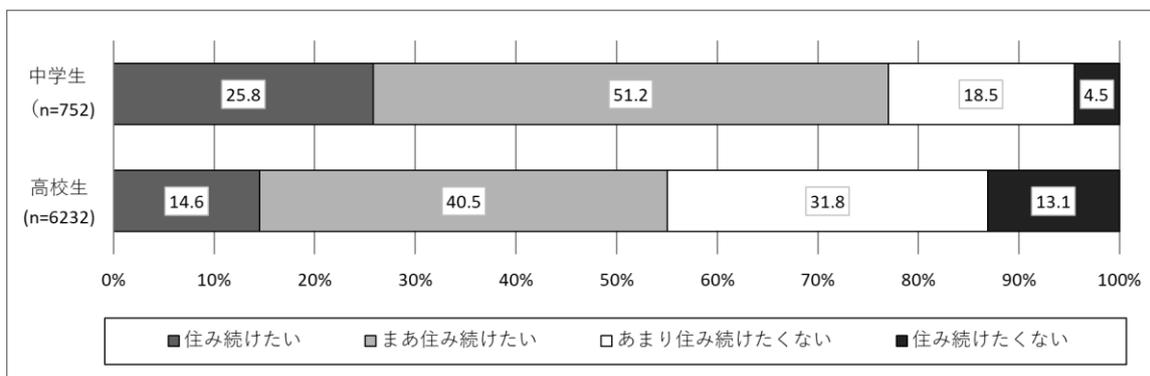


図1 定住意向

<住んでいる地域への評価>(報告書12ページ)

住んでいる地域が「好き」は、小学生が64.4%で最も高く、以下、中学生(48.5%)、高校生(38.2%)となっている。

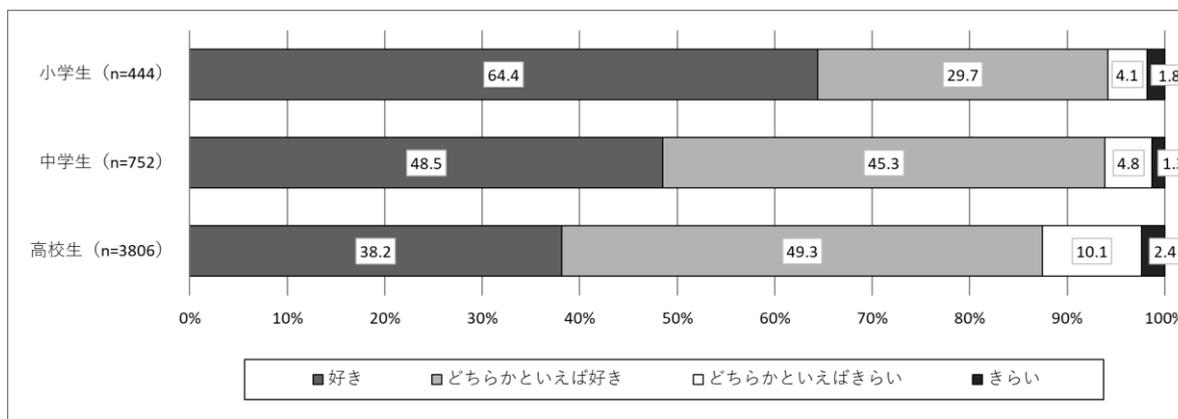


図2 住んでいる地域への評価

＜結婚して家族を作りたいか＞（報告書 15 ページ、R6新たな設問、中学生と高校生のみ）

中学生、高校生に、将来、結婚して家族を作りたいかどうか尋ねたところ、「将来家族を作りたい」が最も高いが、中学生より高校生のポイントが高い。

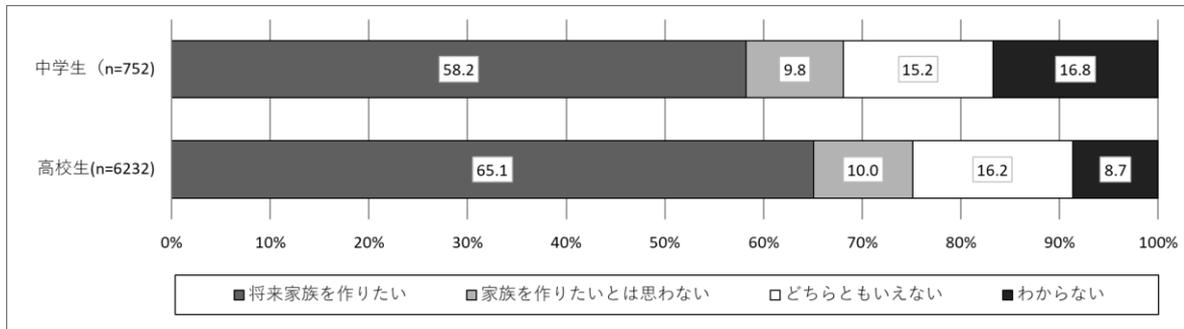


図3 将来結婚して家族を作りたいか

＜地域活動への参加＞（報告書 16 ページ）

最近 1 年間で参加した地域活動について尋ねたところ、「お祭りなど地域の行事」が小学生、中学生、高校生のいずれでも最も高く、中学生 (62.8%)、小学生 (62.2%)、高校生 (58.6%) の順となっている。

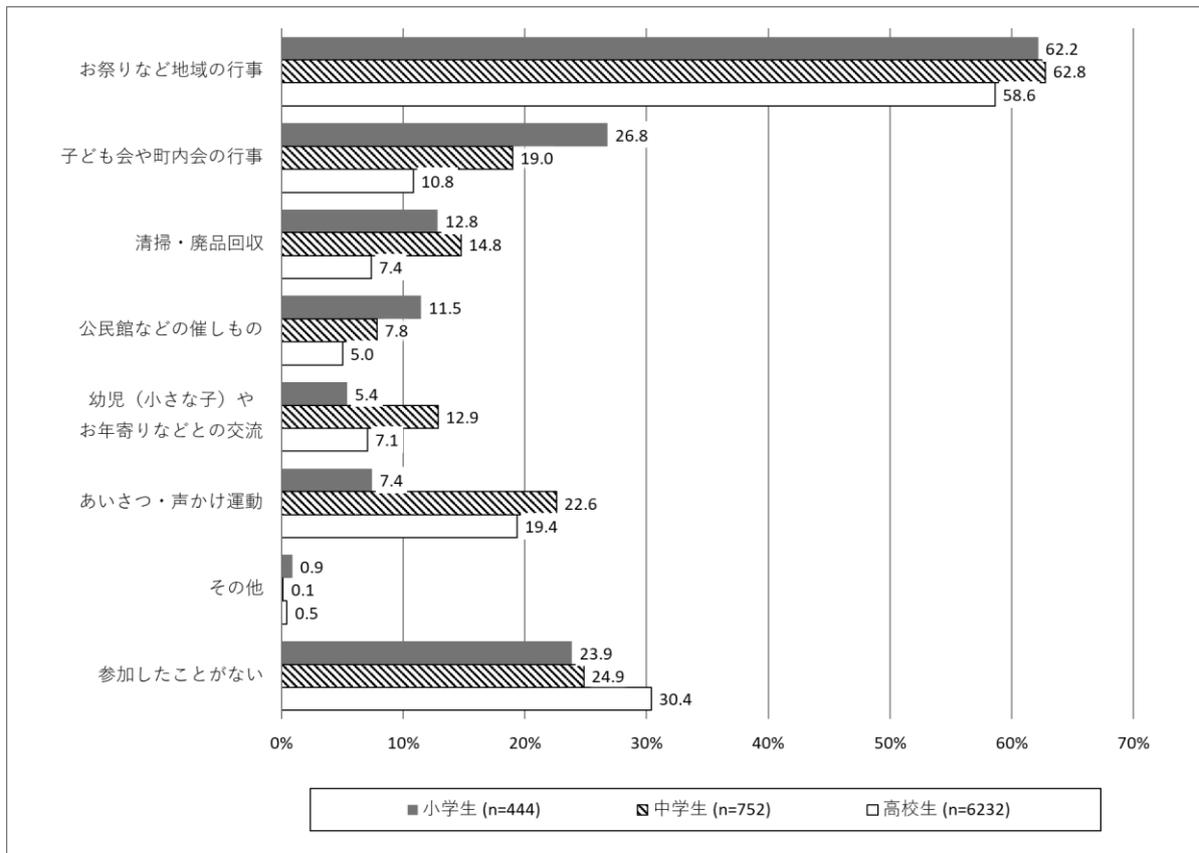


図4 地域活動への参加

<地域の大人からのあいさつ> (報告書 21 ページ)

地域の大人から挨拶されているかどうか尋ねたところ、「いつもされている」は、小学生が 27.5%で最も高く、中学生(21.5%)、高校生(18.1%)となっている。

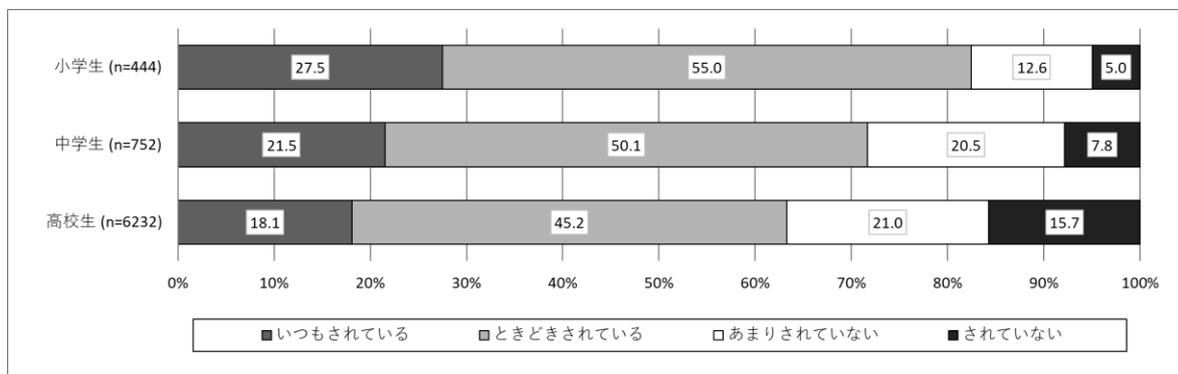


図5 大人からのあいさつ

<1日の勉強時間> (報告書 23 ページ、R6新たな設問)

1日平均の勉強時間を尋ねたところ、小学生では1時間 20 分、中学生では1時間 13 分、高校生では 59 分であった。

表1 1日の勉強時間

	小学生	中学生	高校生
平均	1時間20分	1時間13分	59分

<学校生活への満足度> (報告書 23 ページ)

学校生活が楽しいかどうか尋ねたところ、「楽しい」は、小学生が 58.8%で最も高く、以下、高校生(52.2%)、中学生(51.2%)となっている。

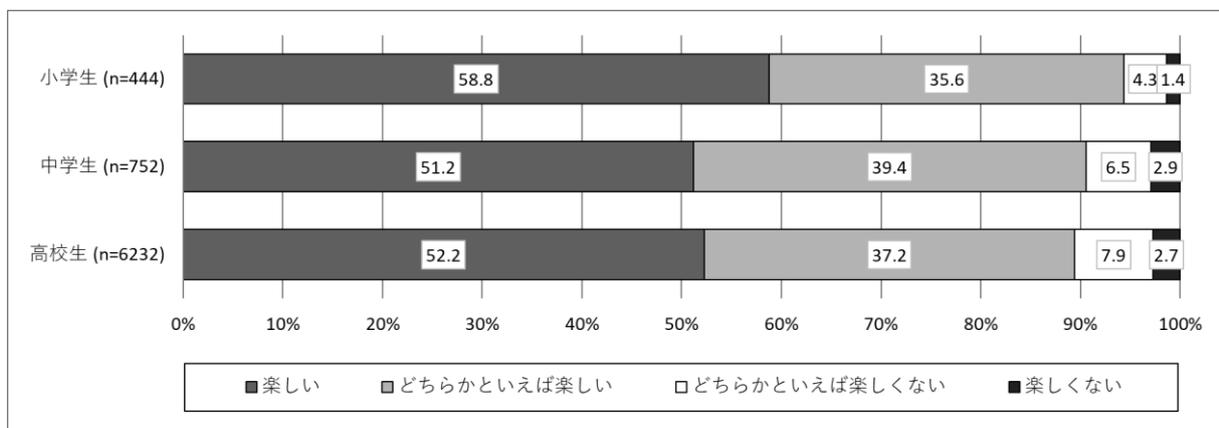


図6 学校生活の楽しさ

＜家族・家庭への評価＞（報告書 29 ページ）

家族・家庭が安心できる存在・場所かどうか尋ねたところ、「安心できる存在・場所だ」が最も高く、小学生が 78.8%、以下、中学生 (72.9%)、高校生 (72.0%) となっている。

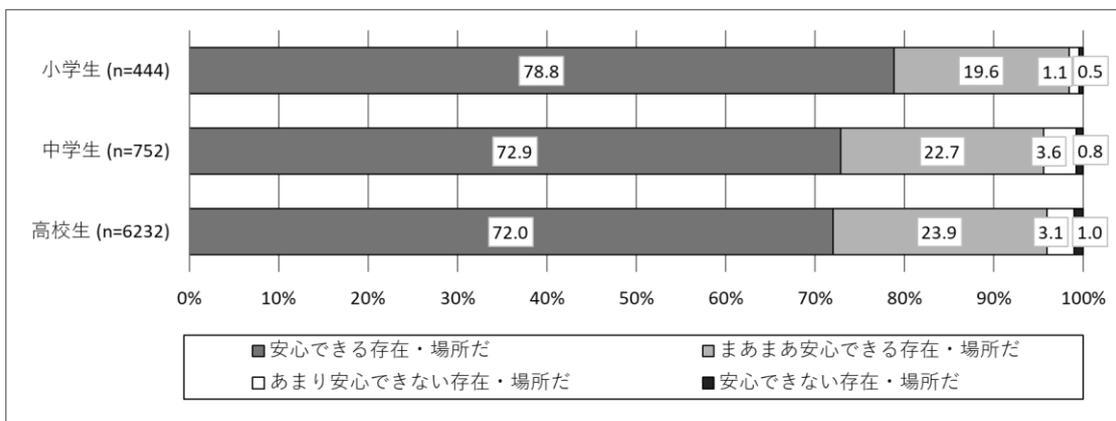


図7 家族・家庭への評価

＜1日のお手伝い時間＞（報告書 36 ページ、R6回答方法変更）

1日のうちにお手伝いをする平均時間を尋ねたところ、小学生では 48 分、中学生では 43 分、高校生では 49 分であった。

表2 1日のお手伝い時間

	小学生	中学生	高校生
平均	48分	43分	49分

＜自己への評価＞（報告書 44 ページ）

自分のことが好きかどうか尋ねたところ、「好き」と答えた割合は、小学生が 32.0%で最も高く、以下、中学生 (29.4%)、高校生 (26.5%) となっている。

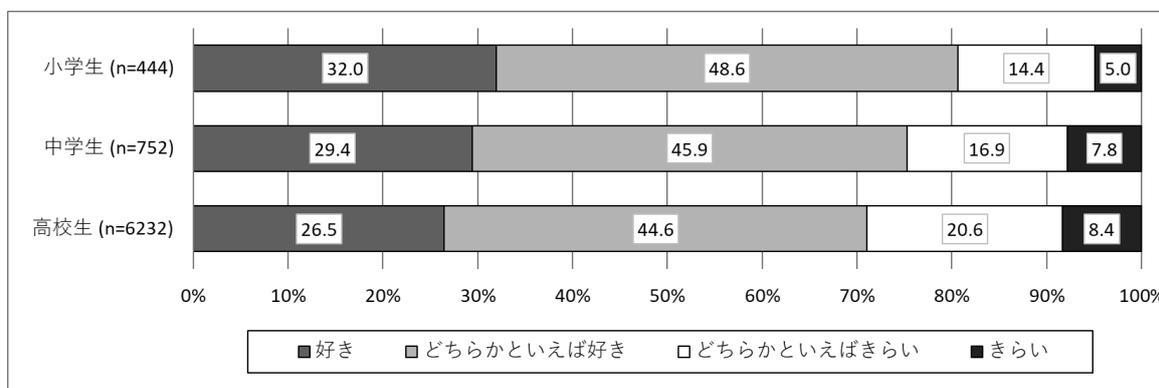


図8 自分のことが好きか(自己肯定感)

＜家族や社会への関わりについて＞（報告書 55 ページ）

世の中の役に立っていると感じるかについて尋ねたところ、「そう思う」は、小学生が 27.9%で最も高く、以下、高校生(25.7%)、中学生(21.0%)となっている。

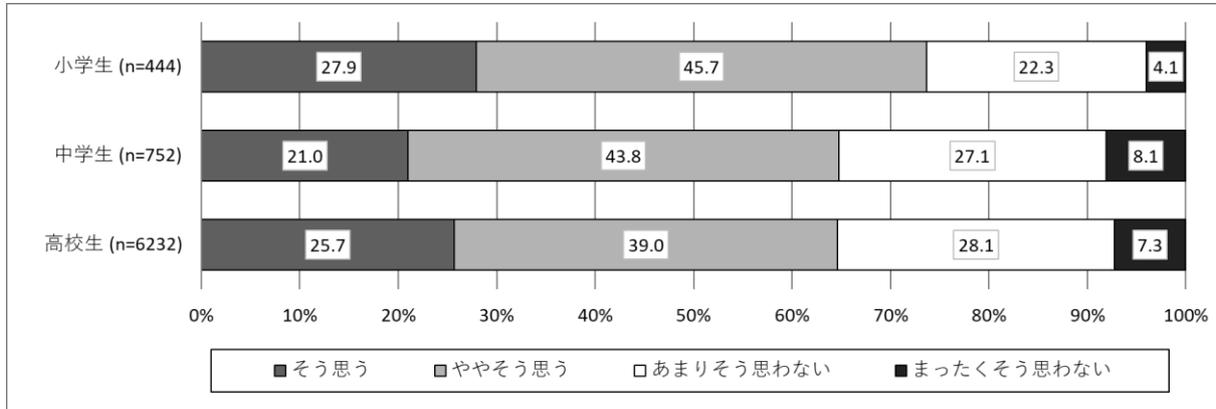


図9 自己有用感

＜居心地のいい場所＞（報告書 59 ページ）

居心地のいい場所について尋ねたところ、小学生は、「家庭（親戚の家を含む）」(66.0%)、中学生と高校生は、「自分の部屋」(中学生 82.6%、高校生 84.5%)の割合が最も高くなっている。

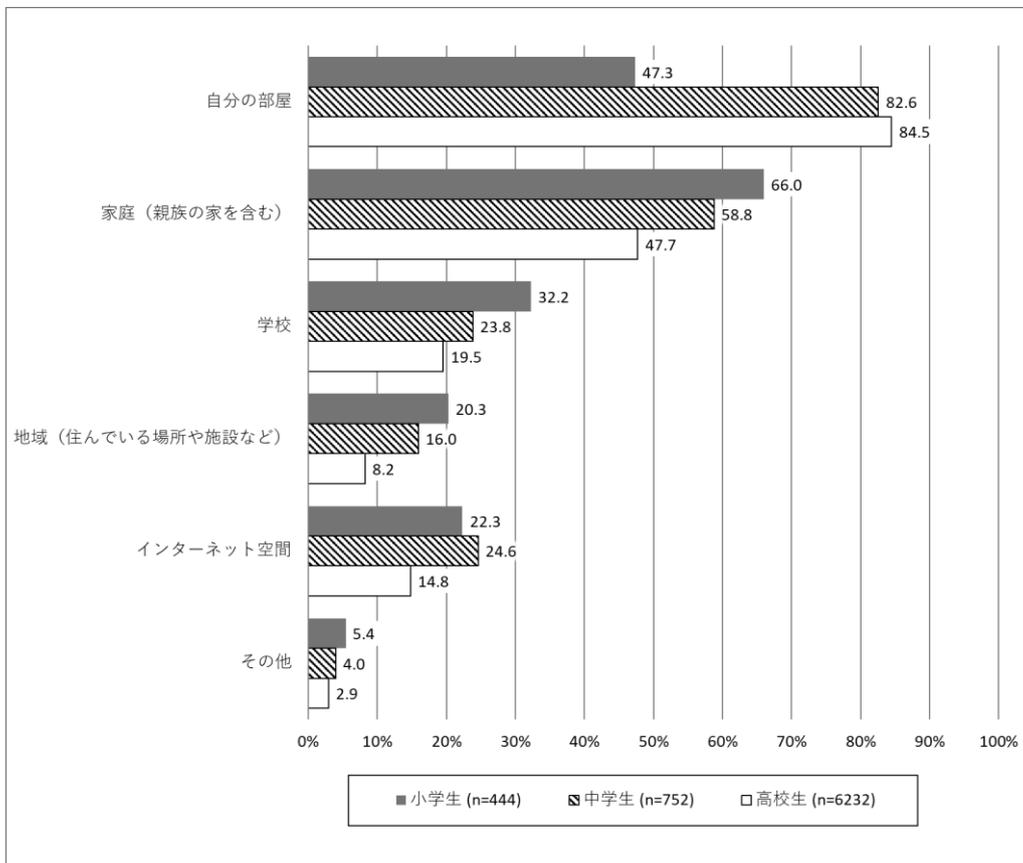


図10 居心地のいい場所

＜悩みごと＞(報告書 61 ページ)

悩みごとについて尋ねたところ、小学生と中学生では、「勉強・成績のこと」が 37.2%、53.7%で最も高く、高校生では、「将来のこと」が 53.9%で最も高くなっている。

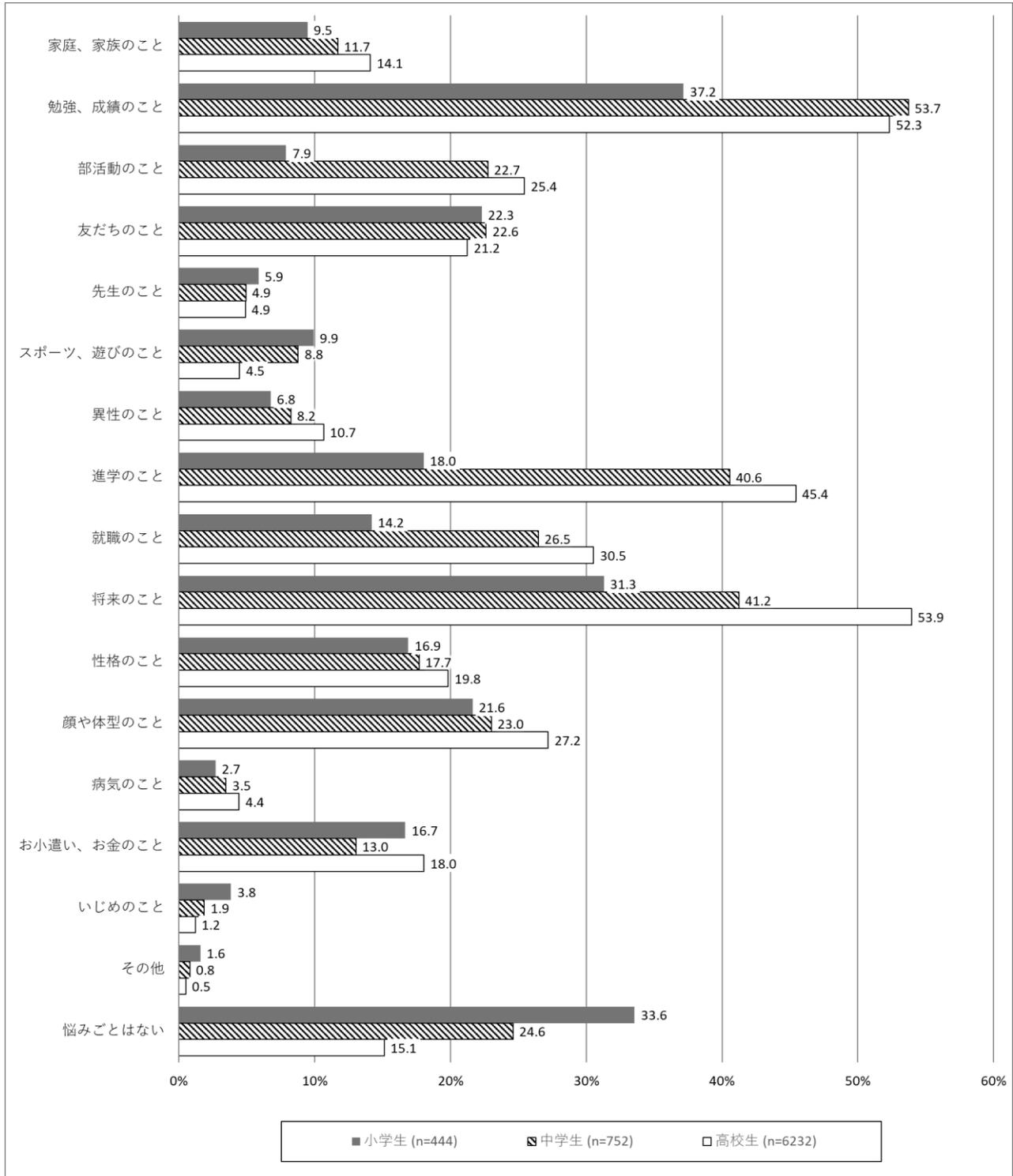


図 11 悩みごと

＜悩みごとの相談相手＞（報告書 65 ページ）

いろいろなことを相談する相手は誰かについて尋ねたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも、「お母さん」（小学生：45.5%、中学生：37.9%、高校生：31.1%）が最も高くなっている。

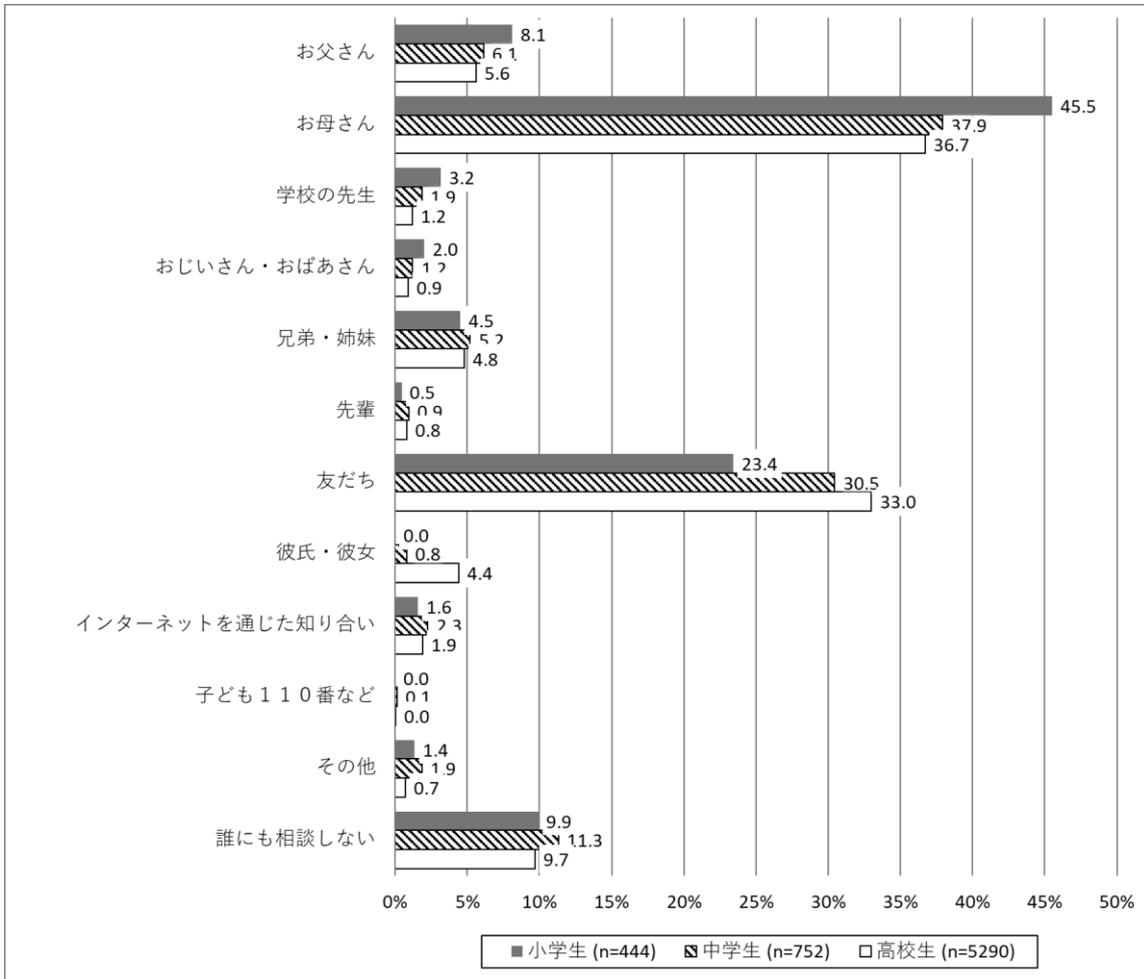


図 12 悩みごとの相談相手

＜友だちとのコミュニケーション方法＞（報告書 71 ページ）

友だちとのコミュニケーション方法について尋ねたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも、「直接会って話をする」（小学生：74.5%、中学生：65.0%、高校生：72.2%）が最も高くなっている。

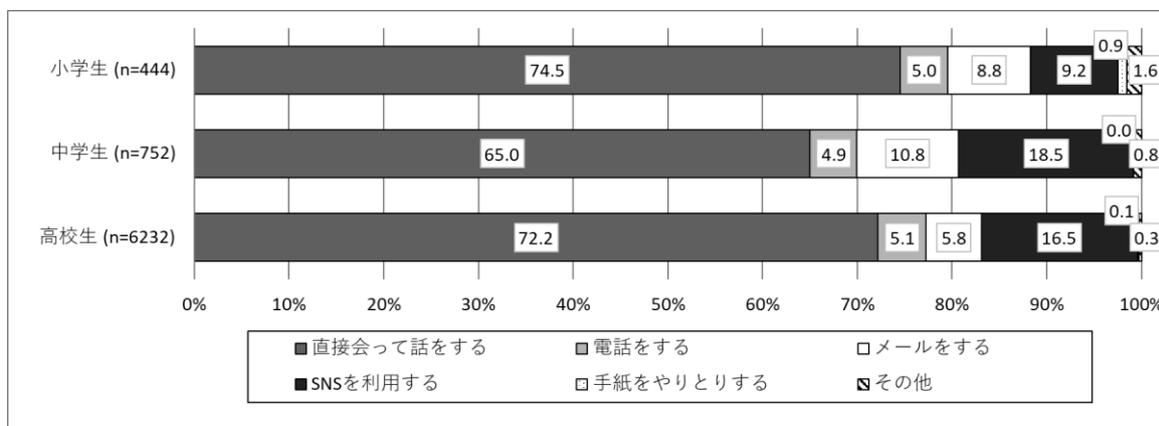


図 13 コミュニケーションの方法

＜インターネット利用の悪影響＞（報告書 91 ページ）

インターネットにのめりこんで、勉強に集中できなかったり、睡眠不足になったりしたことがあるか尋ねたところ、「ある」と答えた割合は、高校生が 26.8%と最も高く、以下、中学生（19.2%）、小学生（8.0%）となっている。

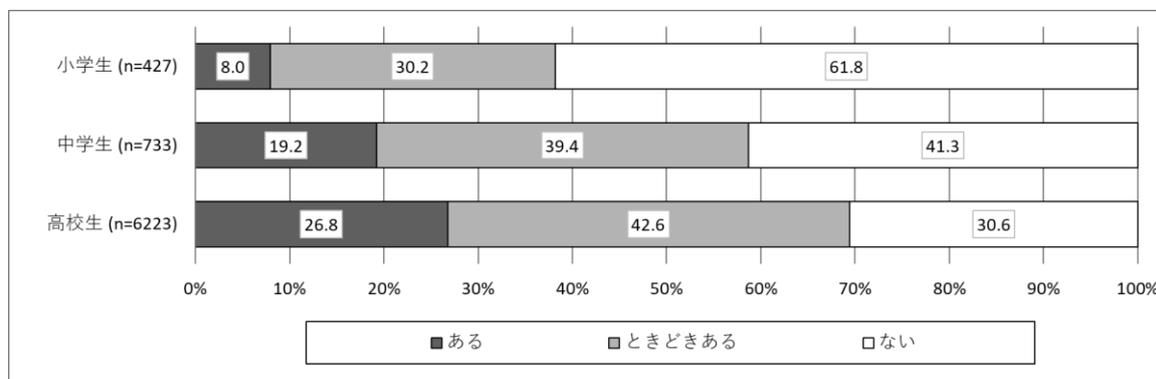


図 14 インターネット利用の悪影響

＜1日のスマートフォンの利用時間＞（報告書 98 ページ、R6回答方法変更）

1日平均のスマートフォンの利用時間を聞いたところ、小学生は2時間9分、中学生は3時間 29 分、高校生は4時間 15 分となっている。

表3 1日のスマートフォンの利用時間

	小学生	中学生	高校生
平均	2時間9分	3時間29分	4時間15分

<家庭でのインターネット利用ルール> (報告書 98 ページ)

家庭でのインターネット利用のルールを尋ねたところ、小学生、中学生では、「利用する時間を決めている」の割合が最も高く、高校生では、「特にルールを決めていない」の割合が最も高くなっている。

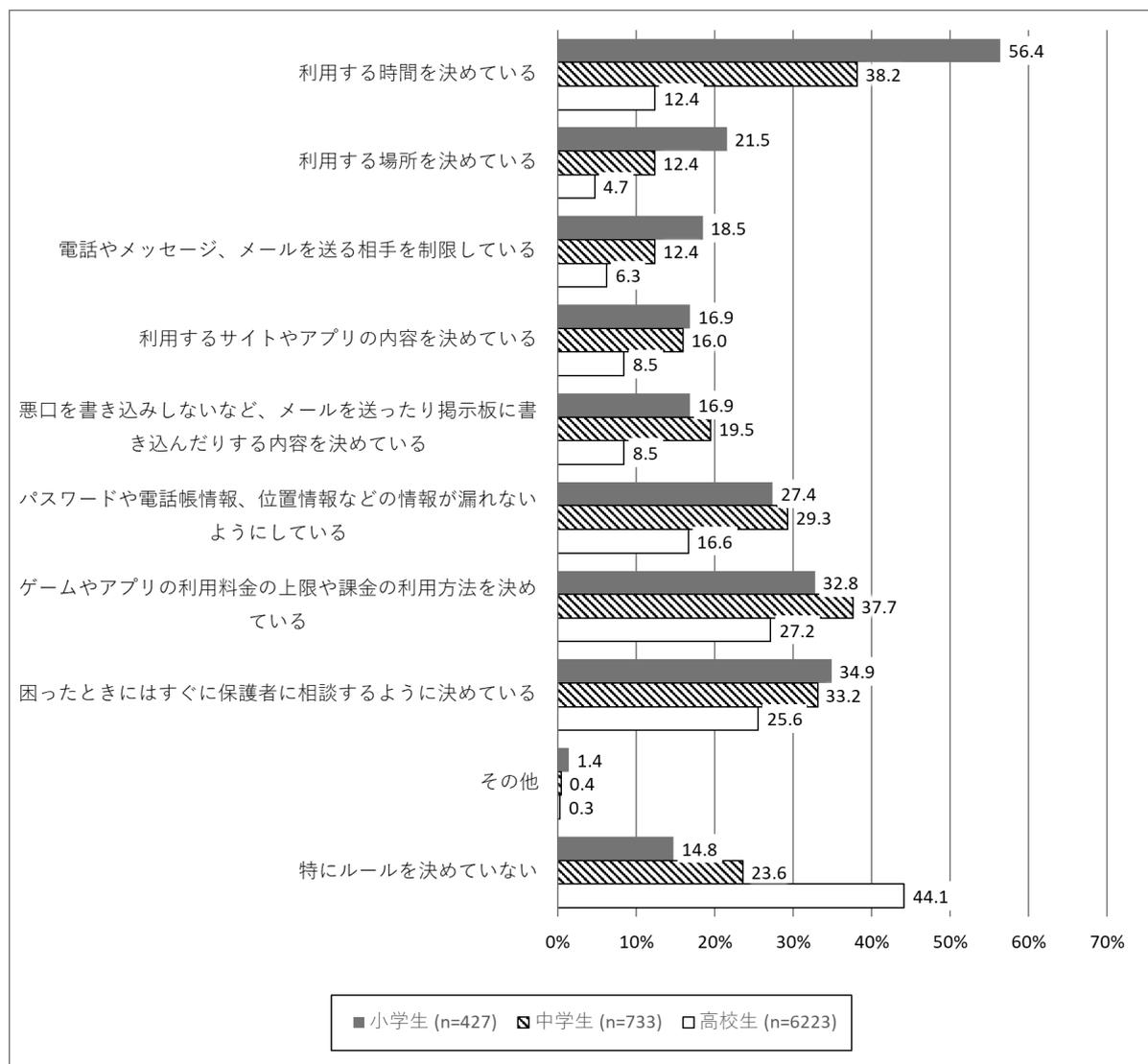


図 15 家庭でのインターネット利用ルール

＜インターネットの危険性の学習＞（報告書 103 ページ）

インターネットの危険性について説明を受けたり、学んだりしたことがあるか尋ねたところ、小学生、中学生、高校生とも、「学校で教えてもらった」（小学生 67.9%、中学生 80.8%、高校生 87.4%）の割合がもっとも高くなっている。

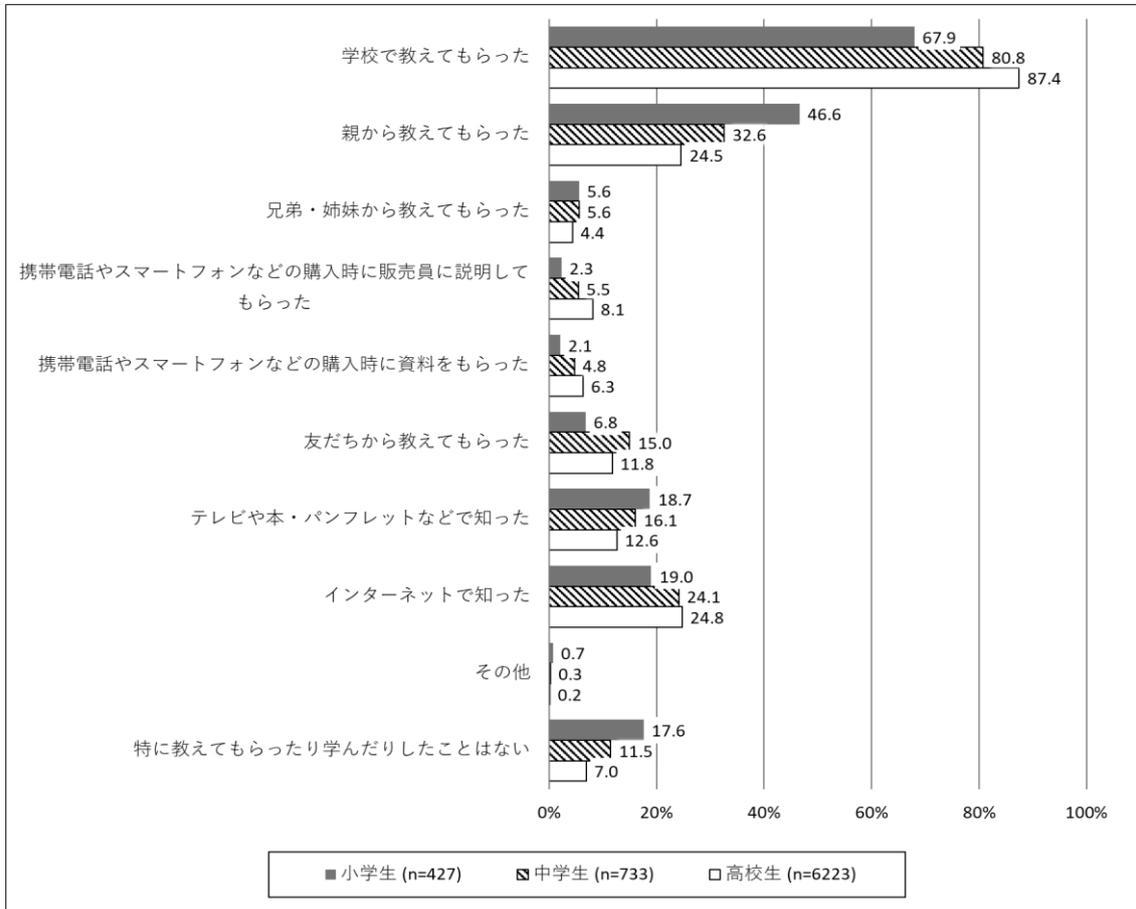


図 16 インターネットの危険性の学習

＜将来の就労意識＞（報告書 114 ページ）

将来したい仕事やつきたい職業があるかどうかを尋ねたところ、「ある」と答えたのは、小学生の 81.8%が最も高く、以下、高校生(73.9%)、中学生(67.8%)となっている。

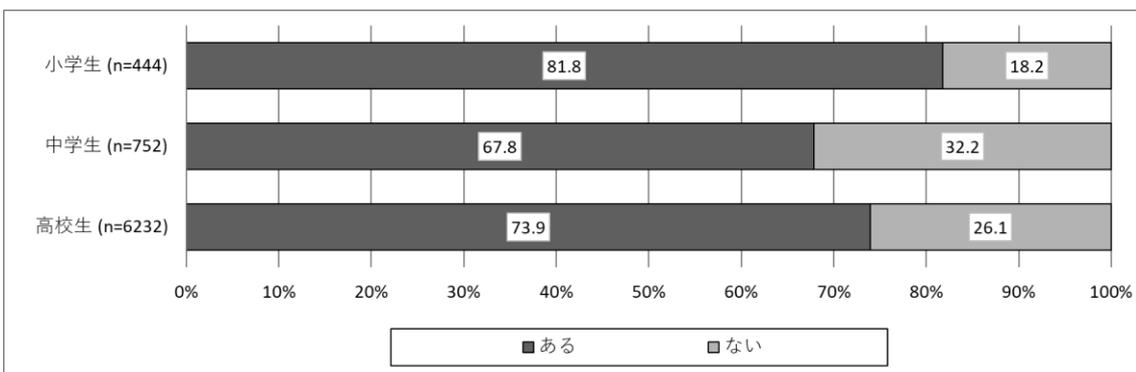


図 17 将来の就労意識

＜社会の価値観の変化に対する意識＞（報告書 122～123 ページ、R6新たな設問）

自分とは異なる考えを持っていたり、好きではない人であっても尊重すべきか尋ねたところ、「そう思う」は、高校生が 76.6%で最も高く、以下、中学生(71.8%)、小学生(69.6%)となっている。

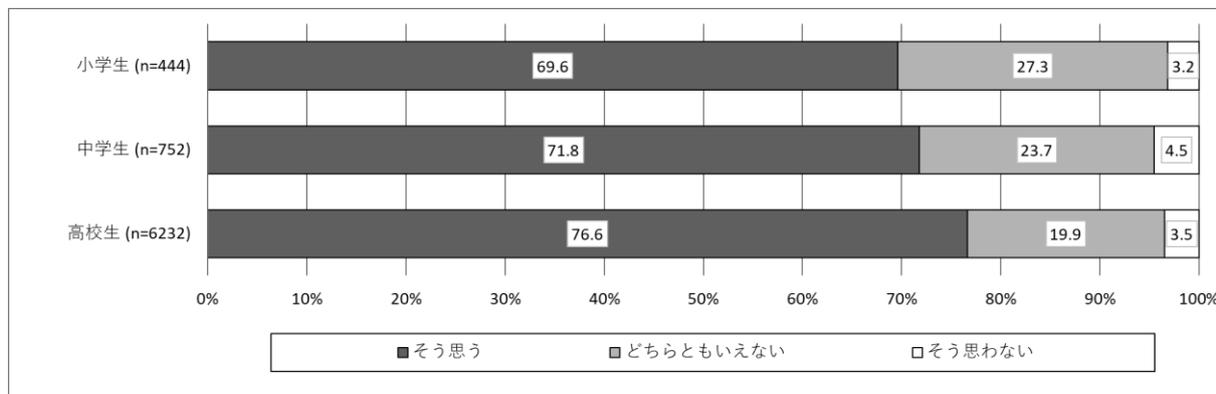


図 18 自分とは異なる考えを持っていたり、好きではない人も尊重すべき

友達の数は多いほうが良いかどうか尋ねたところ、「そう思う」は、小学生が 60.1%で最も高く、以下、中学生(42.4%)、高校生(33.3%)となっている。

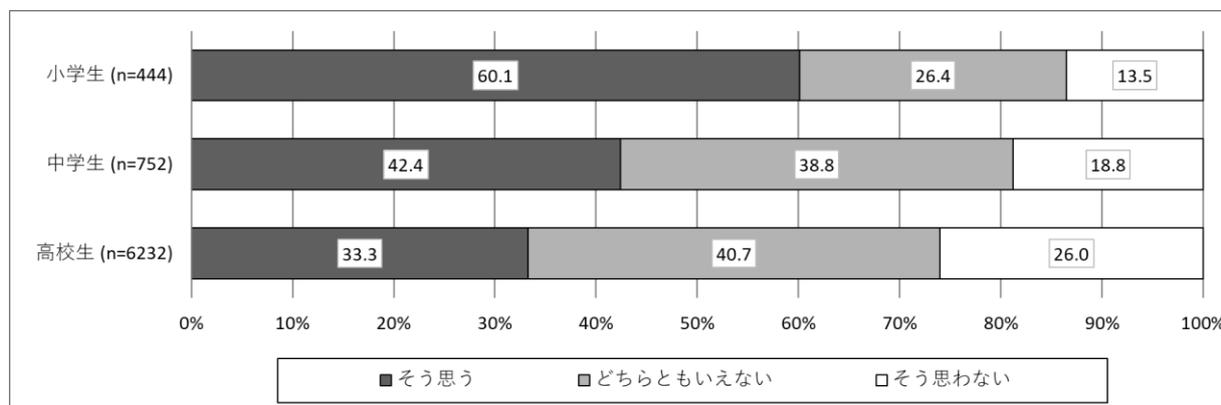


図 19 友だちは多いほうが良い